

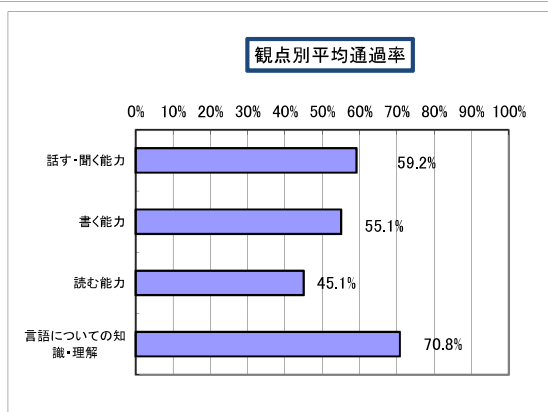
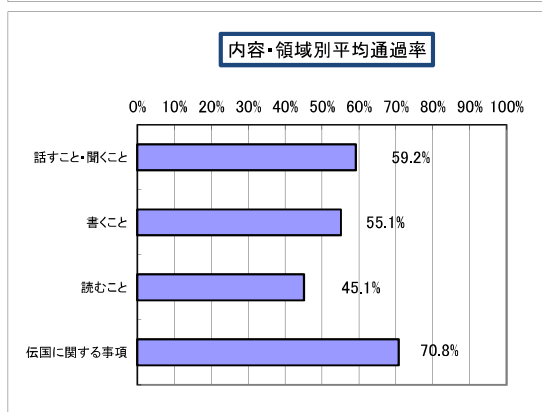
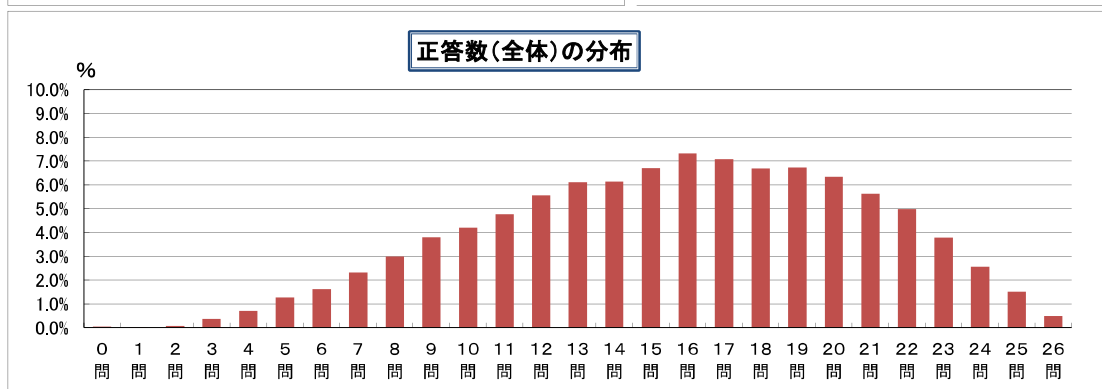
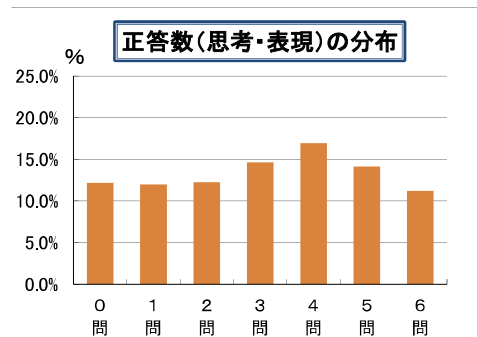
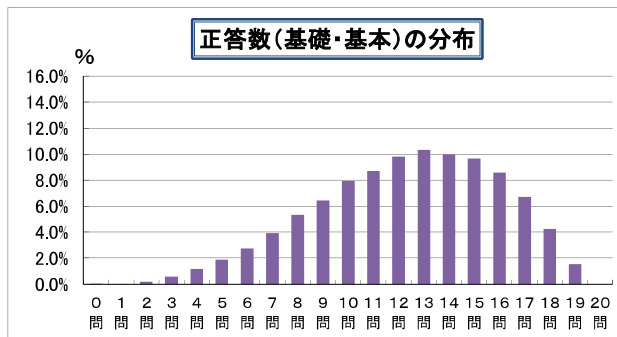
3 各教科の平均通過率と受検者の正答数分布（県全体）

(1) 【小学校】

小学校第5学年【国語】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	64.8%	63.2%	71.0%
思考・表現	47.5%	58.5%	58.4%
全体	60.1%	61.9%	67.6%

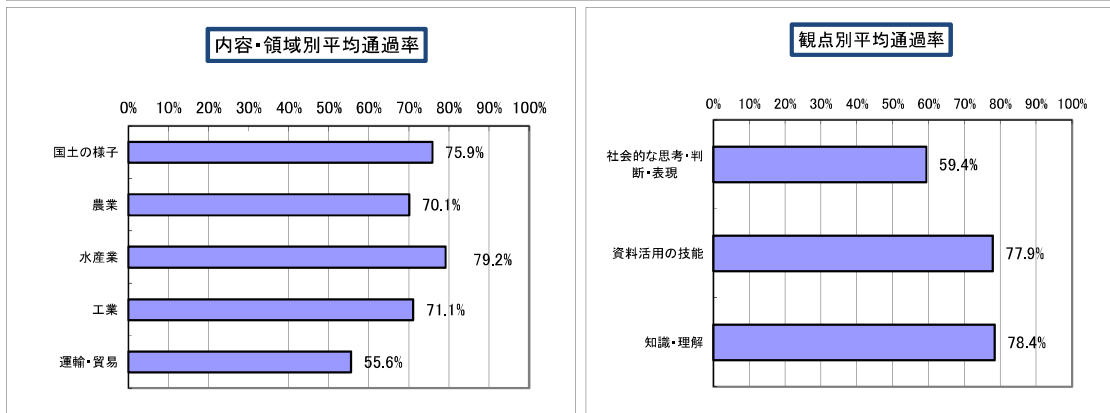
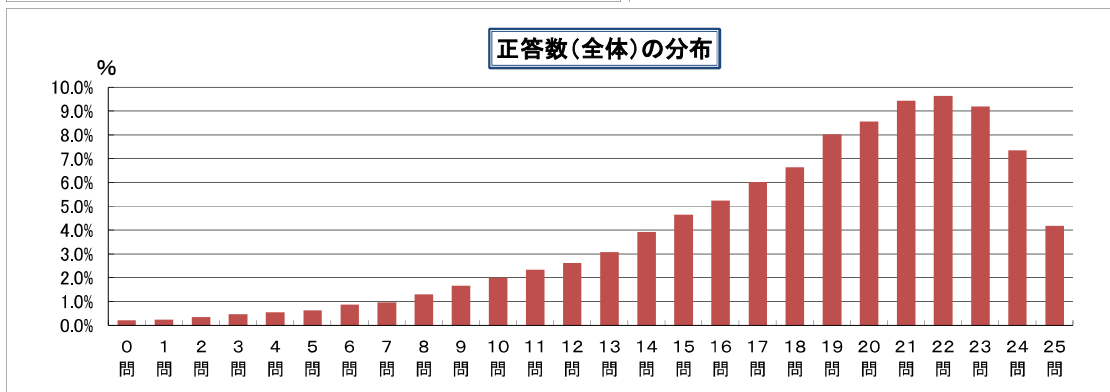
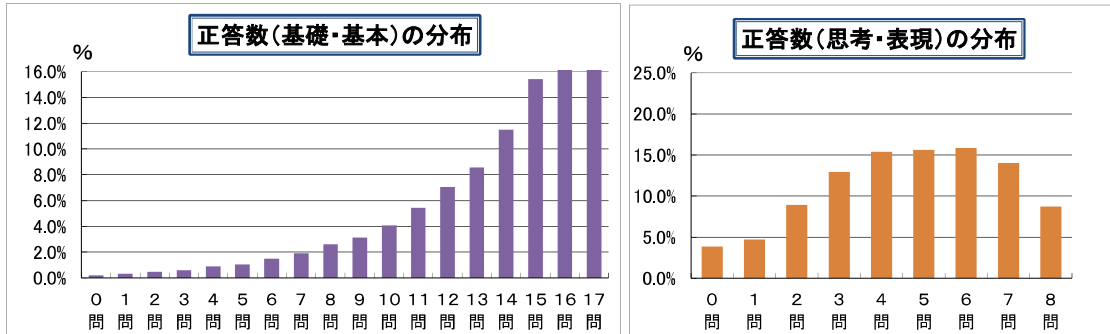


- 「基礎・基本」については、平均通過率は64.8%である。ローマ字が子音と母音の組み合わせで表記されることについては、課題の改善が見られる。今後、撥音や促音、拗音、長音等の表記まで定着を確実にものにしたい。継続して出題した手紙の後付けについては、依然として課題が継続している。行事の案内やお礼の手紙を書く活動などと結び付け、確実に定着させたい。
- 「思考・表現」については、平均通過率は47.5%である。正答数（思考・表現）の分布グラフから正答数2問以下の児童は、昨年度よりも改善されたものの4割に近い状況である。読むことの領域は45.1%であり、ひとまとまりの文章を一読し、文章の大体を捉えることや、設問から重要な語句や文を見付け、それらの叙述を結び付けて考えをまとめることに課題を残している。
- 考えをまとめるためには、表現されている叙述と叙述を結び付け正確に理解することが必要である。さらに、読み取った情報と自分の経験や身に付けている知識等と結び付けながら理由付けを行い、分かりやすく表現できるように情報の扱い方に関する事項を踏まえて、書くことを指導し、適切に評価してほしい。

小学校第5学年【社会】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	79.8%	68.8%	54.9%
思考・表現	58.1%	46.5%	42.6%
全体	72.9%	62.2%	51.2%



○ 「基礎・基本」に関する問題の平均通過率は79.8%、「思考・表現」に関する問題の平均通過率は58.1%と、概ね定着が図られている。

「内容・領域別平均通過率」を見ると、運輸・貿易に関する問題の平均通過率が55.6%と低く、次いで農業、工業に関する問題の平均通過率が低くなっている。

また、「観点別平均通過率」を見ると、社会的な思考・判断・表現に関する問題の平均通過率が59.4%と他の観点と比べて低く、特に食料生産と外国とのつながりや自動車の生産と人々の工夫など問題の通過率が低い。

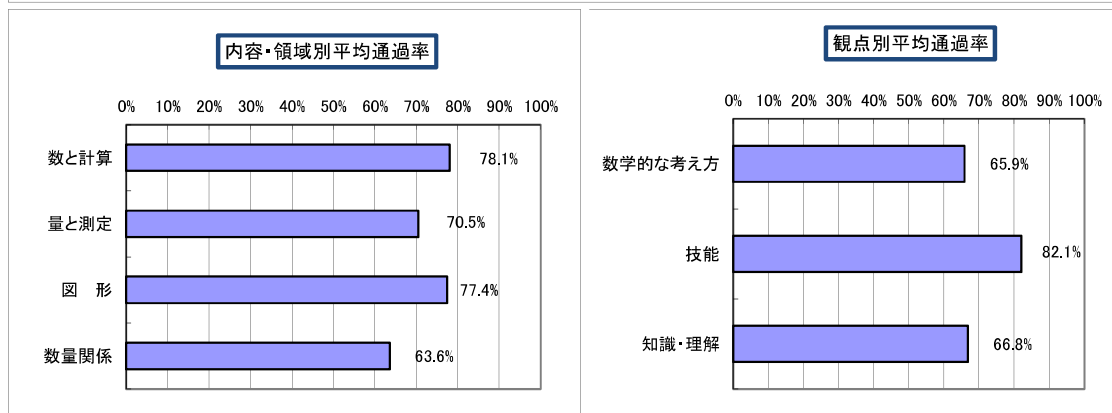
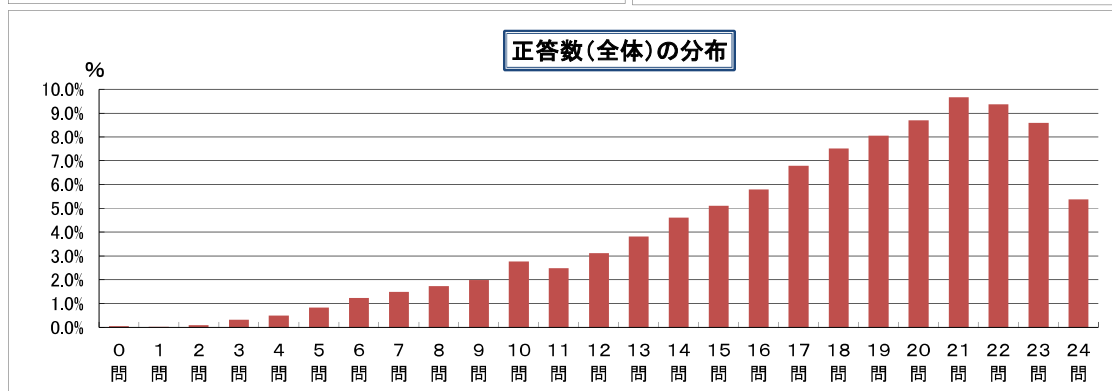
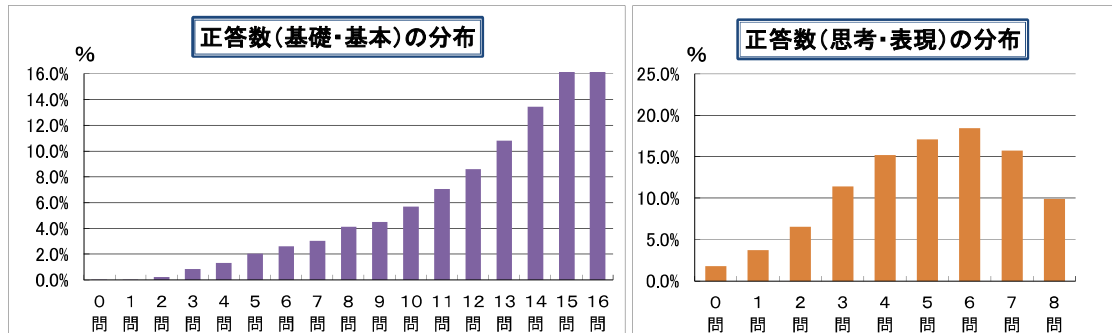
今後、運輸・貿易、農業や工業に関して学習する際、その職業に従事する人々の努力や工夫について、自分の考えを表現できるように、文章で書いたり、発表したりする活動を取り入れる。

○ 運輸・貿易に関する問題など、資料を関連付けて説明する問題に課題があるため、地図やグラフ等の資料を関連付けた活動を重視するとともに、自分の考えをまとめたり、グループで話し合ったりする活動に取り組ませたい。

小学校第5学年【算数】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	78.0%	68.0%	65.1%
思考・表現	62.3%	39.0%	54.1%
全体	72.8%	59.7%	60.8%

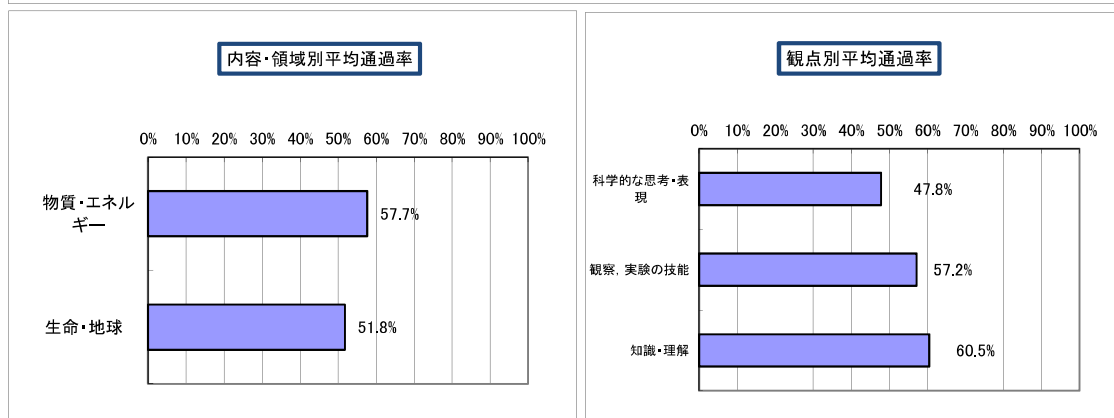
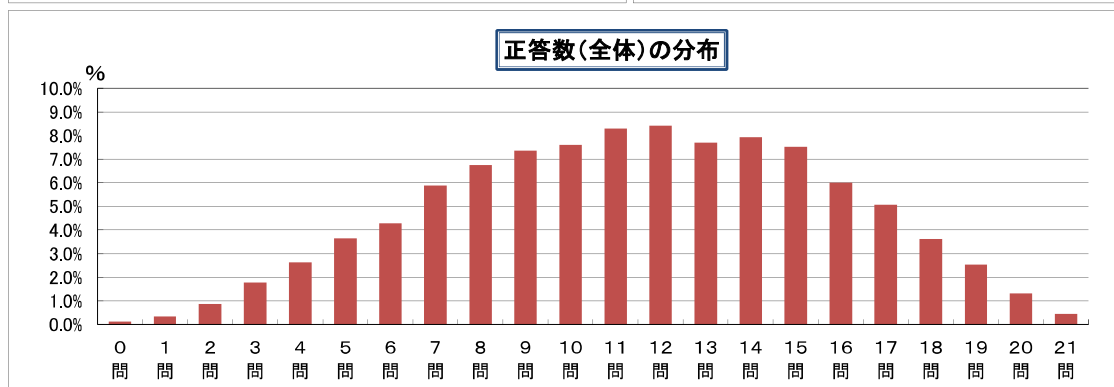
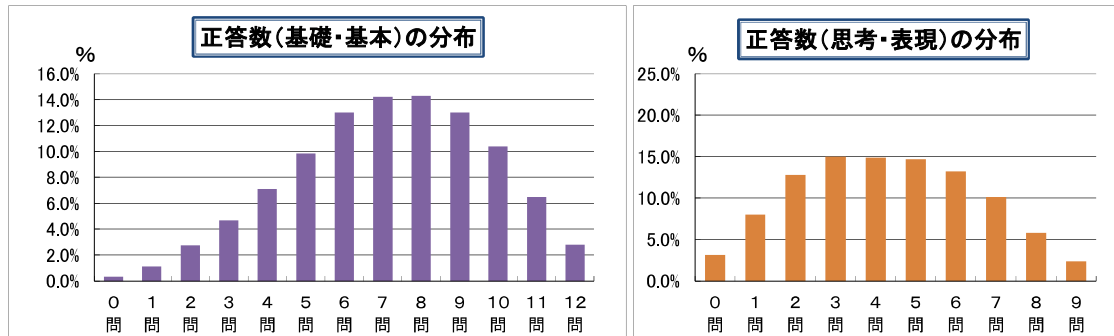


- 「基礎・基本」については、平均通過率が78.0%であり、概ね定着が図られている。「数と計算」の領域についても定着が図れている。しかしながら、倍の関係にある2つの数量を表す線分図を選択する問題については、平均通過率は、59.7%であり、昨年よりは、改善が見られるものの、今回も6割にも到達していない。正答数(基礎・基本)の分布を見ると、10問以下の児童も24%おり、このことが正答数(全体)の分布にもつながっていると考えられ、さらに基礎・基本の定着を図る必要がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率は62.3%である。折れ線グラフの特徴を捉え、情報を適切に読み取り、変化の様子を記述したり、単位量当たりの大きさの比べ方の説明を記述したりする問題の通過率が低い。自分の考えを数学的な表現を用いて、ノートに記述したり、伝え合ったりする活動を取り入れる必要がある。
- 表やグラフから数量や変化を読み取り、言葉や数を用いて、筋道立てて考えたことを表現したり、説明したりする学習活動を工夫・充実させていくことが必要である。

小学校第5学年【理科】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	59.7%	62.2%	55.9%
思考・表現	47.8%	53.9%	39.0%
全体	54.6%	59.2%	50.3%



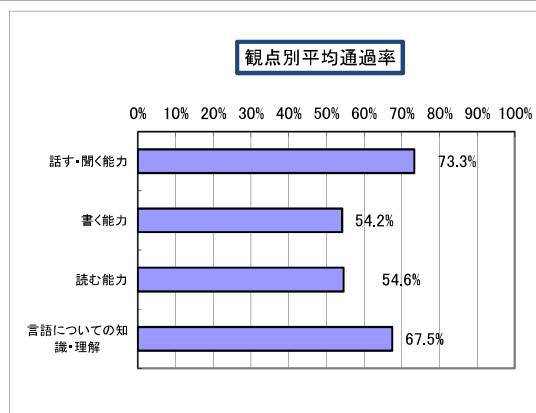
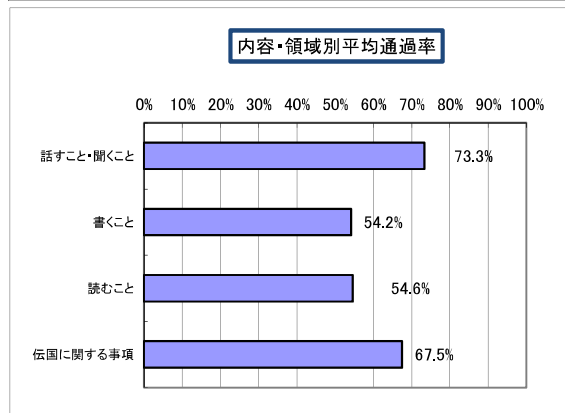
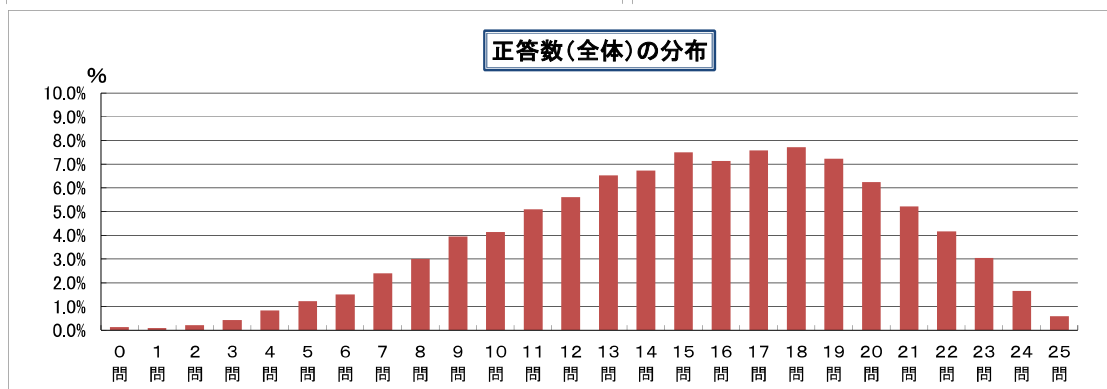
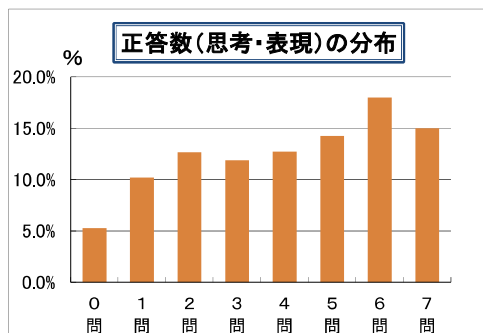
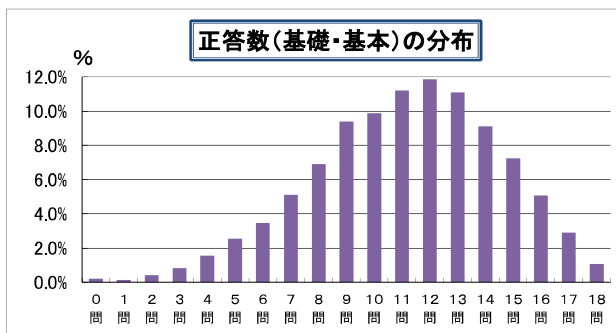
- 「基礎・基本」については、平均通過率は59.7%である。小3や小4で学習した大問1, 2, 5の平均通過率が低い。大問1「太陽の観察」では、シャ光プレートの名称と使う理由の平均通過率は37.7%である。授業で使用するだけでなく、部分日食の機会等を児童に紹介して、道具を使って安全に観察させたい。大問2「水の三態変化」では、湯気や沸騰させたときの泡の状態は何か理解できていない。(平成27年度からの追跡調査であるが平均通過率は下がっている。)
- 「思考・表現」については、平均通過率は47.8%である。特に、追跡問題である大問4(4)「ろ過の前後の水溶液の様子をモデルで説明する問題」は、平均通過率は46.4%であり、前回より平均通過率が下がっている。
- 「問題解決の過程」を踏まえた授業を展開するとともに、問題の設定や実験の企画、観察、実験の結果の処理、考察の場面など、個人で考え、その後、意見交換したり、根拠を基にして話し合ったりして、自分の考えをより妥当なものにしていく学習を行う必要がある。併せて、授業の終末で時間を確保し、学習したことをまとめ、振り返りをさせるなど、学んだことを定着させる取組が必要である。

(1) 【中学校】

中学校第1学年【国語】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	64.8%	63.2%	71.0%
思考・表現	47.5%	58.5%	58.4%
全体	60.1%	61.9%	67.6%

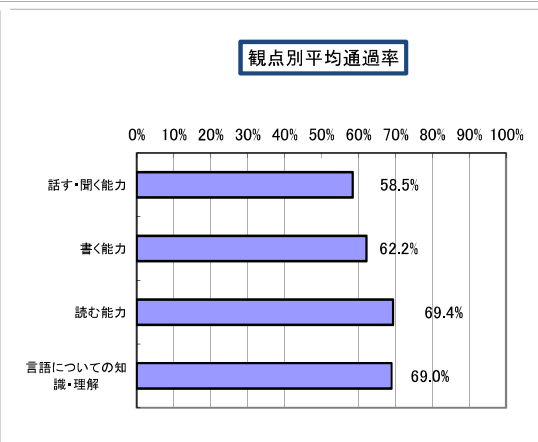
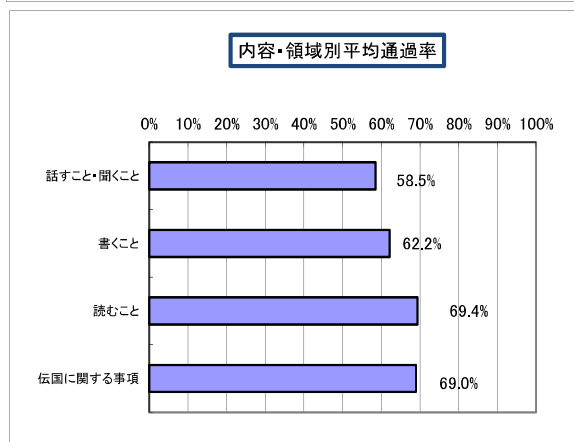
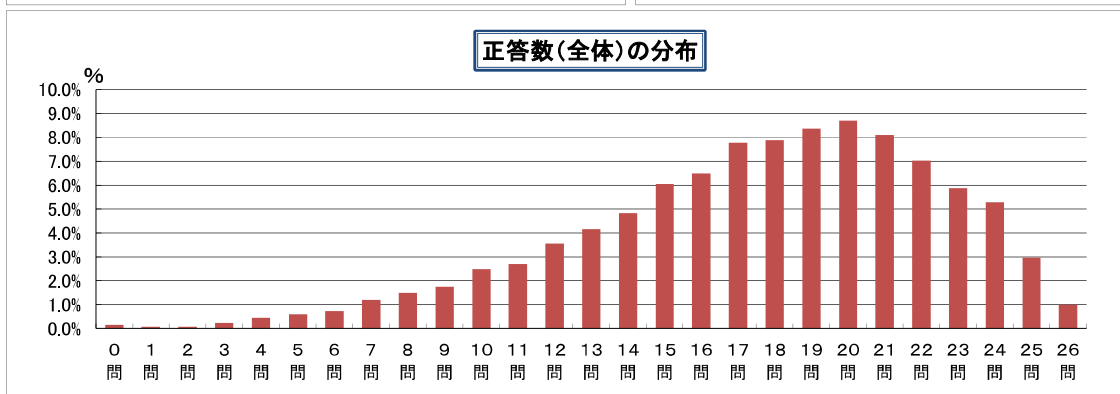
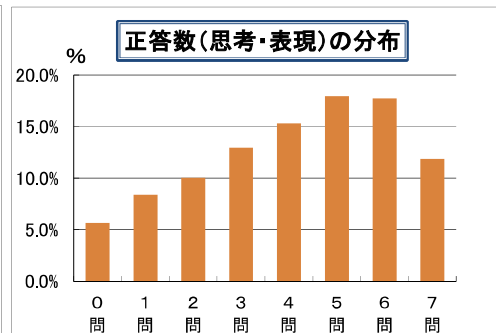
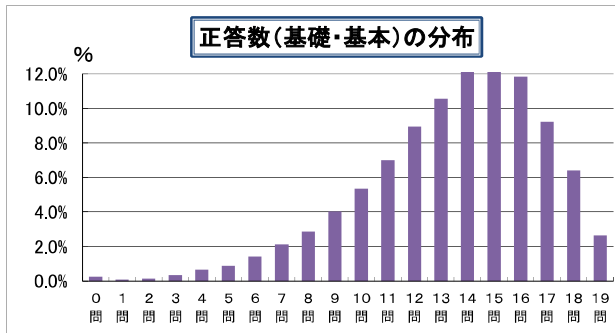


- 「基礎・基本」については、平均通過率は63.2%である。文章を読んで、内容をイメージすることと、同様の内容を要約する問題を出题したが、両者におよそ25%の開きがあった。問題の場面を正しくイメージすることができていない生徒が4割以上いることを踏まえ、今後の教科指導が行われるよう、他教科との連携も必要である。
- 「思考・表現」については、平均通過率は58.5%である。正答数5問以上の生徒は5割近くおり、書く力の育成が図られつつあることがうかがえる。一方、正答数2問以下の生徒も3割近くいることを踏まえ、授業のまとめ、振り返りの場面では、何がどのように表現できたことがよかったのか丁寧な指導と評価を繰り返していく必要がある。
- 大問5では、複数の作品を読んで、共通する作者の考えを捉えた上で、レポート作成を行う場面を設定した。レポート作成など文学的な文章を読んで考えたことなどを、記録したり伝え合ったりする活動を経験したことがない生徒にとっては、解答が難しかったであろうことが予想される。今後、学習指導要領解説の言語活動例を参考に、目的をもって意欲的に学習に取り組むことができるような言語活動を位置付けた単元を構想してほしい。

中学校第2学年【国語】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	64.8%	63.2%	71.0%
思考・表現	47.5%	58.5%	58.4%
全体	60.1%	61.9%	67.6%

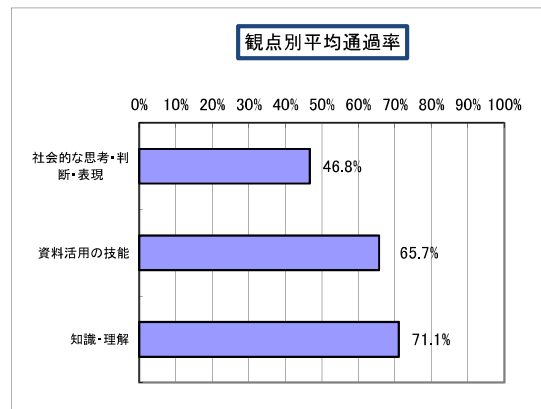
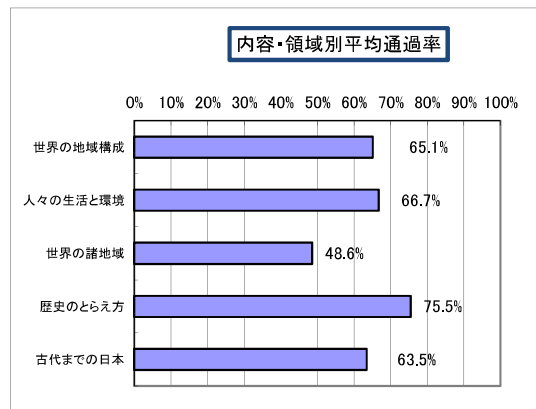
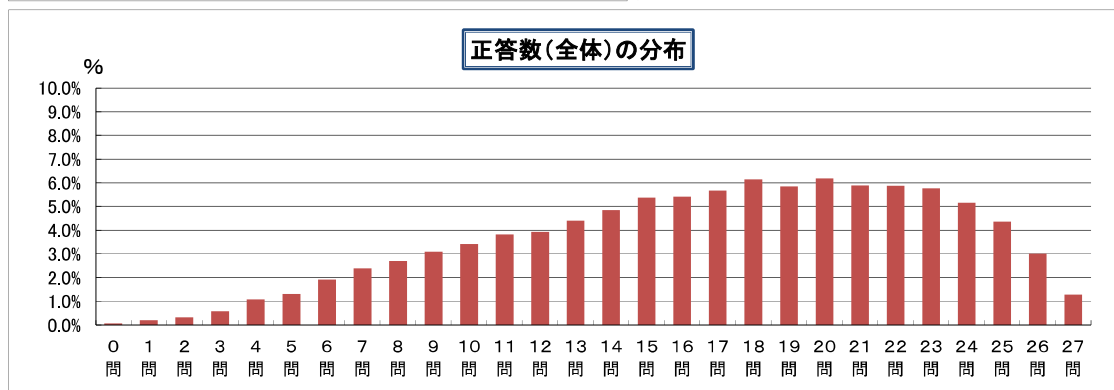
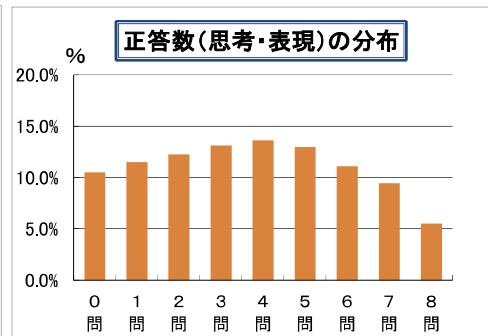
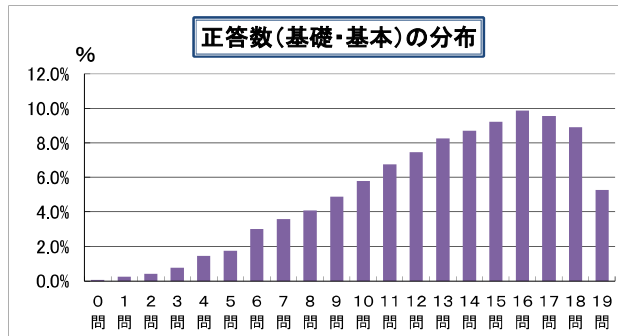


- 「基礎・基本」については、平均通過率は71.0%である。文章を読んで、内容をイメージすることと、同様の内容を要約する問題を出題したが、両者におよそ16%の開きがあった。問題の場面を正しくイメージすることができていない生徒が35%程度いることを踏まえ、今後の教科指導が行われるよう他教科との連携も必要である。
- 「思考・表現」については、平均通過率は58.4%である。グラフを選択して考えの裏付けとなる特徴を読み取り、記述する問題を出題した。文章と図表を関連付けることについては、重点課題でも取り組み、グラフの特徴は読み取れるようになってきている。ただ、その特徴を生かし、自分の考えを結び付けて表現することができていない誤答が多かった。
- 出題された意図や条件に沿って解答したり、文章や図、表、グラフなどから読み取ったことを関連付けて解答したりすることができていない。言語活動を行う中で、相手に分かりやすく伝える工夫を考えさせたり、問題演習を繰り返す中で解法のこつをつかませたりすることも必要である。考えを交流する際、互いの考えを批評する活動などを適切に位置付けていきたい。

中学校第1学年【社会】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	79.8%	68.8%	54.9%
思考・表現	58.1%	46.5%	42.6%
全体	72.9%	62.2%	51.2%

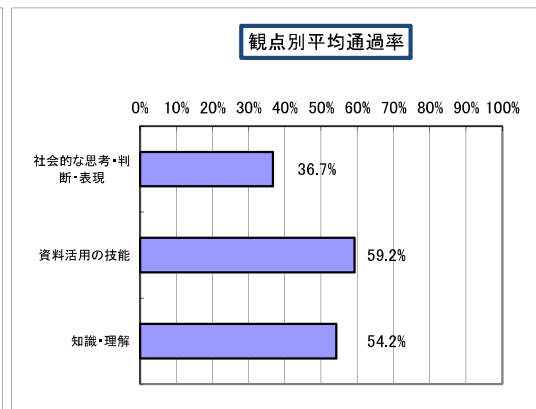
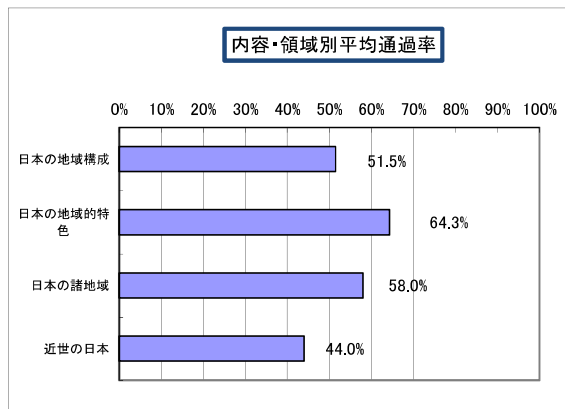
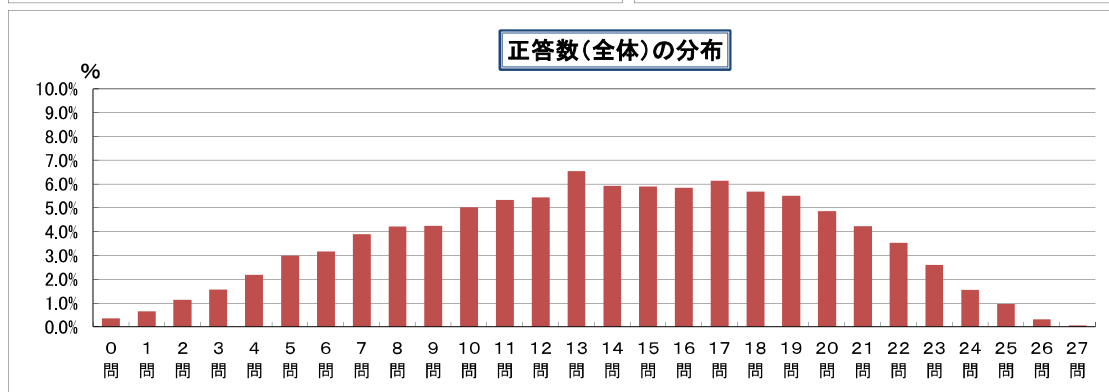
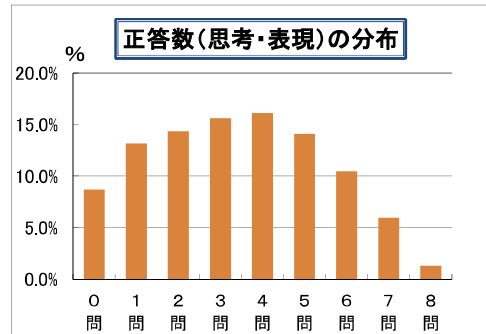
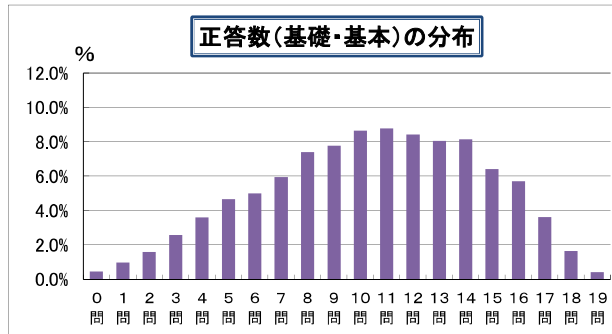


- 「基礎・基本」については、平均通過率は68.8%であり、正答数(基礎・基本)の分布を見ると、上位層の割合が低いことが分かる。
一方、「思考・表現」については、平均通過率は46.5%である。分布を見ると下位層の割合が高くなっており、正答数2問以下の生徒が3割を超えている。
- 「内容・領域別平均通過率」を見ると、世界の諸地域に関する内容の平均通過率が48.6%と低く、次いで古代までの日本に関する内容の平均通過率が63.5%と低くなっている。また、「観点別平均通過率」を見ると、社会的な思考・判断・表現に関する問題の平均通過率が46.8%と定着が図られておらず、特に中国の工業化が進んだ理由について、既習事項と資料等を関連させながら解答する問題の平均通過率が低いことが分かる。
- 今後、選択・判断した根拠や理由を明確にし、考えをまとめる活動や、定期考査等でごしま学力向上支援Webシステム上の評価問題等を活用するなどの取組を充実させることが必要である。
さらに、複数の資料(写真、グラフ、表等)を活用して、社会的事象を多角的・多面的に捉えられるように、比較・関連付けを意識した授業改善に取り組んでもらいたい。

中学校第2学年【社会】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	79.8%	68.8%	54.9%
思考・表現	58.1%	46.5%	42.6%
全体	72.9%	62.2%	51.2%

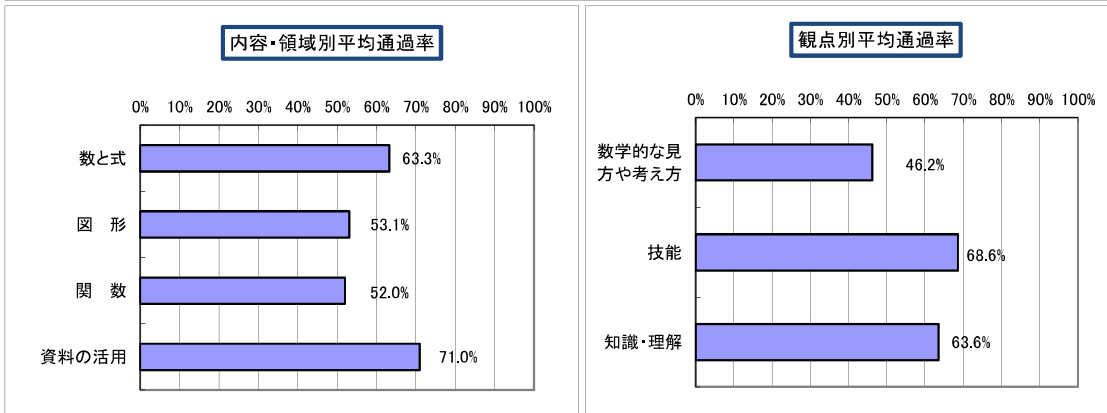
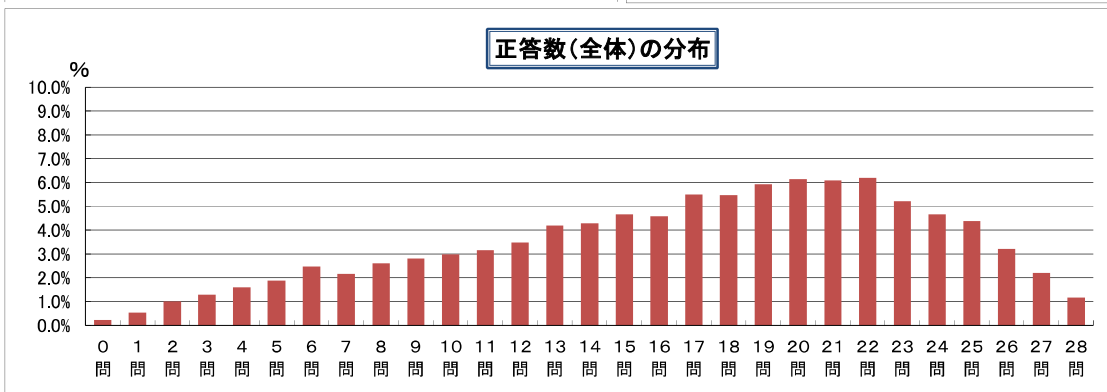
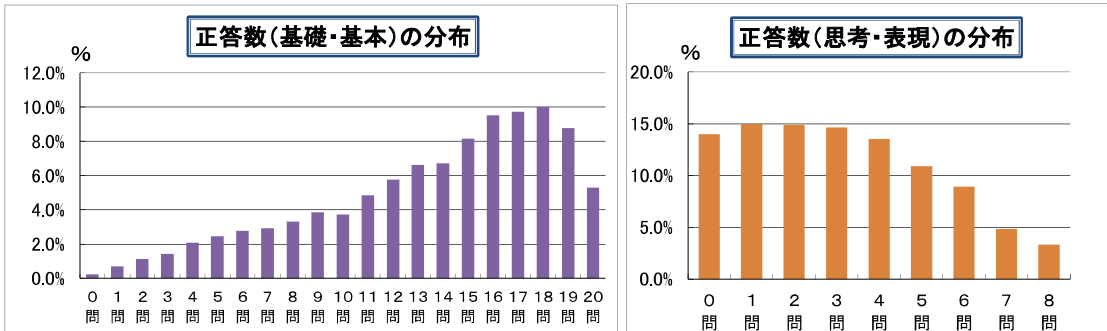


- 「基礎・基本」については、平均通過率は54.9%であり、正答数分布（基礎・基本）も中位層に集中していることが分かる。
また、「思考・表現」については、平均通過率は42.6%であり、正答数分布（思考・表現）を見ると、下位層に分布が集中していることが分かる。
- 「内容・領域別平均通過率」を見ると、近世の日本や日本の地域構成に関する領域に課題が見られ、また、「観点別平均通過率」を見ると、社会的な思考・判断・表現に関する問題の通過率が低く、特に江戸幕府の施策等について、平均通過率が低いことが分かる。
- 発電所の立地条件や本州四国間の交通網の整備に関する問題については、例年、課題となっている問題である。発電所の分布や交通網の状況は地図等で確認するだけでなく、関連する内容や他教科でも繰り返し指導し、内容の定着を図る必要がある。
また、歴史的分野においては、考えたことを発表するなどの活動を繰り返し行い、社会的事象の意味・意義、相互の関係など、多面的・多角的に考察する学習となるように工夫する必要がある。

中学校第1学年【数学】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	78.0%	68.0%	65.1%
思考・表現	62.3%	39.0%	54.1%
全体	72.8%	59.7%	60.8%

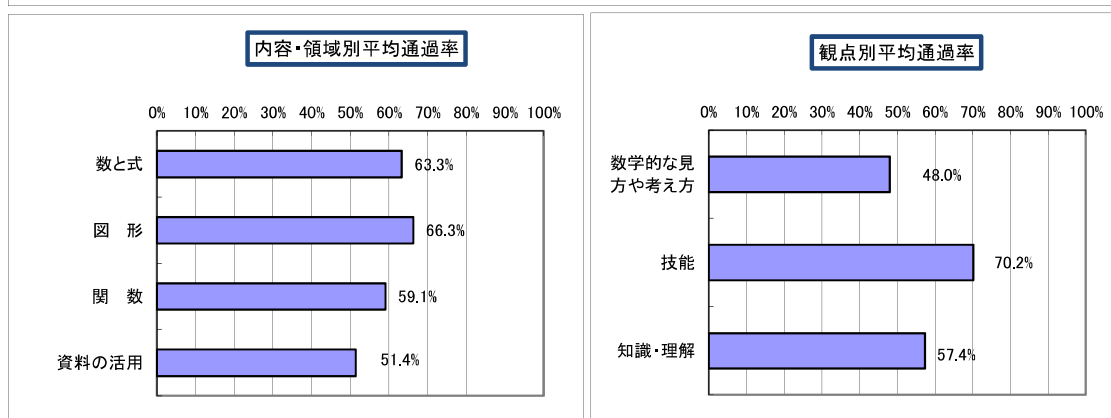
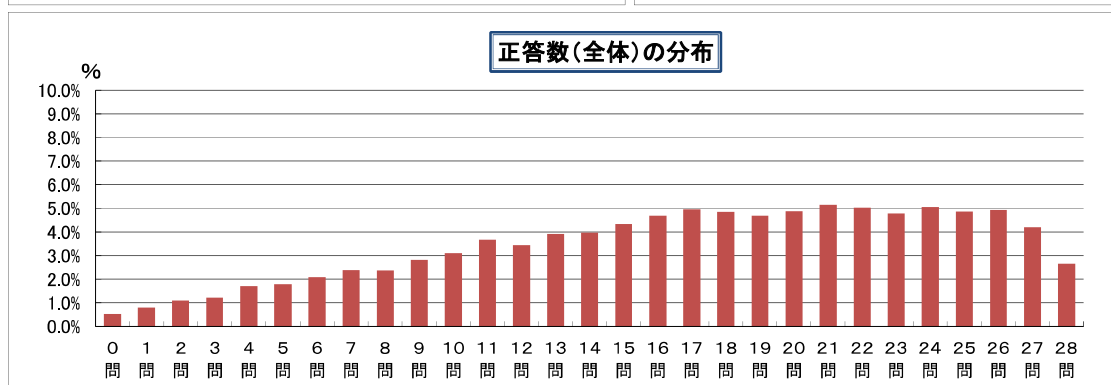
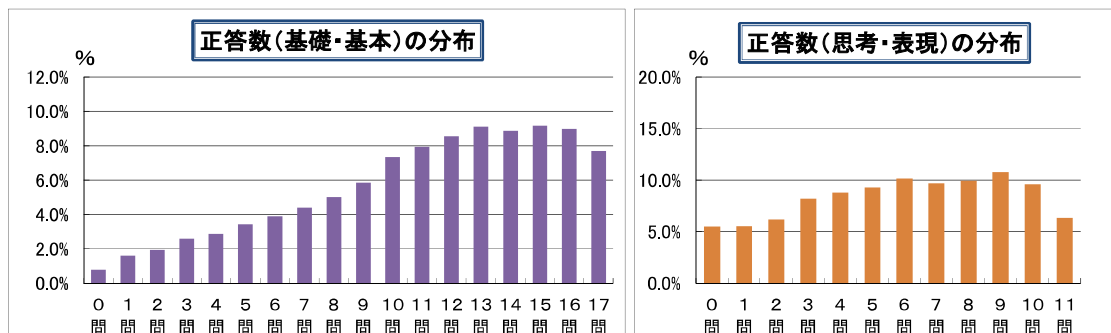


- 「基礎・基本」については、平均通過率が68.0%であり、定着が図られていない。正答数(基礎・基本)の分布をみると、半分以下の正答数であった生徒が多く、定着を図っていく必要がある。特に、展開図から組み立てた立体の体積を求める問題や回転移動、基本的な作図などの問題に課題がある。また、全体に対する割合を求める問題でも、平均通過率が53.2%、無解答率も11.9%であり、昨年に引き続き課題である。
- 「思考・表現」については、平均通過率は39.0%であり、課題がある。正答数(思考・表現)の分布からも、正答数3問以下の生徒が5割を超えており、全体的に定着を図る指導を工夫する必要がある。具体的には、数量を文字式で表し、説明を完成させたり、方程式を用いて解決する過程を記述したりする問題や複数の情報から、問題の解決に必要な情報を読み取り、問題を解決する過程を数学的に表現する問題については、通過率が低く、無解答率も高い。考えたことを式や言葉を用いて数学的に表現することは、課題である。
- 問題から複数の情報を解釈し関連付けて論理的に考察し、説明を記述したり、考えたことの理由を、根拠を明確にして説明したりする学習に取り組ませることが必要である。

中学校第2学年【数学】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	78.0%	68.0%	65.1%
思考・表現	62.3%	39.0%	54.1%
全体	72.8%	59.7%	60.8%

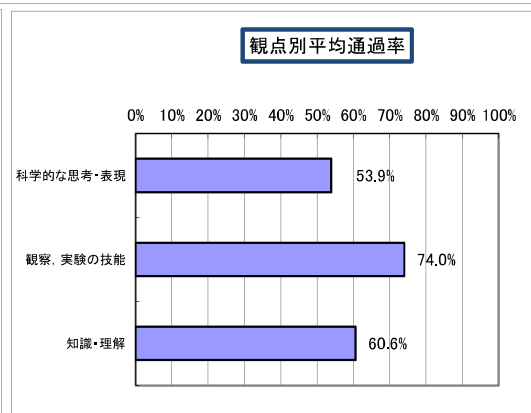
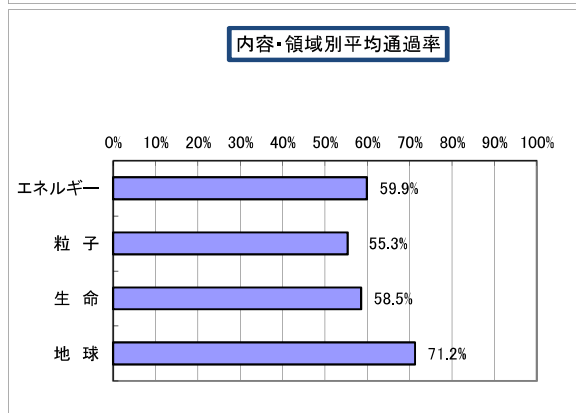
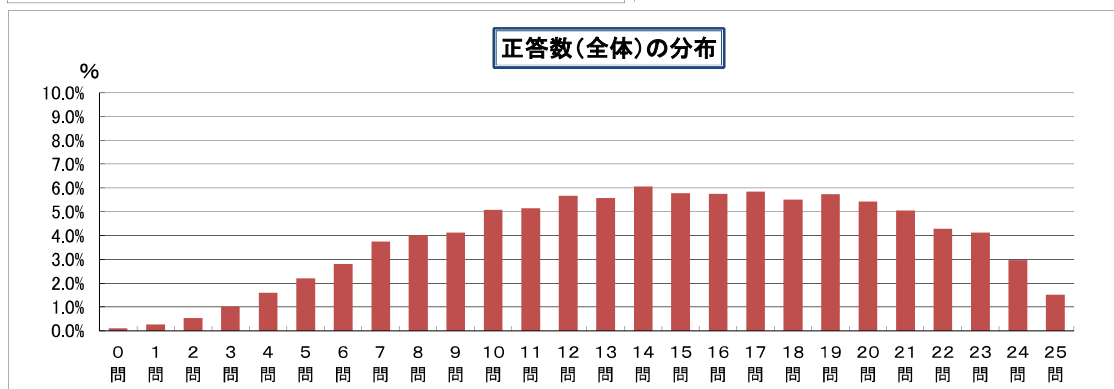
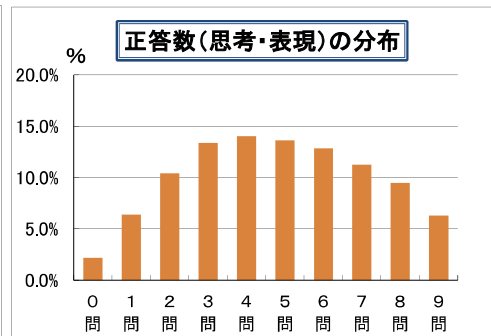
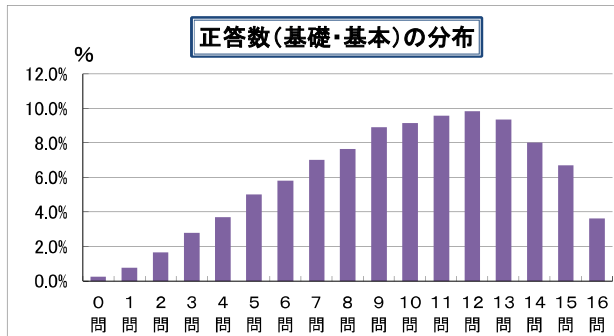


- 「基礎・基本」については、平均通過率が65.1%であり、定着が図られていない。正答数(基礎・基本)の分布からも、10問に達しない生徒も4割おり、課題である。具体的な問題については、数量関係を捉え、立式をする問題や投影図から読み取った円すいの体積を求める問題の平均通過率が低い。また、比例・反比例の問題についても、平均通過率が低く、依然として定着が図られていない。
- 「思考・表現」については、平均通過率が54.1%である。正答数(思考・表現)の分布から、3問以下の生徒も25%おり、観点別では「数学的な見方や考え方」が低い。全体的に思考・表現の力をつけていく必要がある。具体的な問題については、問題場面から見いだした事柄が成り立つ理由を、文字式を用いて説明する問題や資料をもとに、数量を求める問題の平均通過率は低く、無解答率も高い。
- 問題場面から解決に必要な情報や資料等を選択し、言葉や数、式、表、グラフ等を用いて、考えを数学的に表現する活動を繰り返し行うことが大切である。

中学校第1学年【理科】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	59.7%	62.2%	55.9%
思考・表現	47.8%	53.9%	39.0%
全体	54.6%	59.2%	50.3%

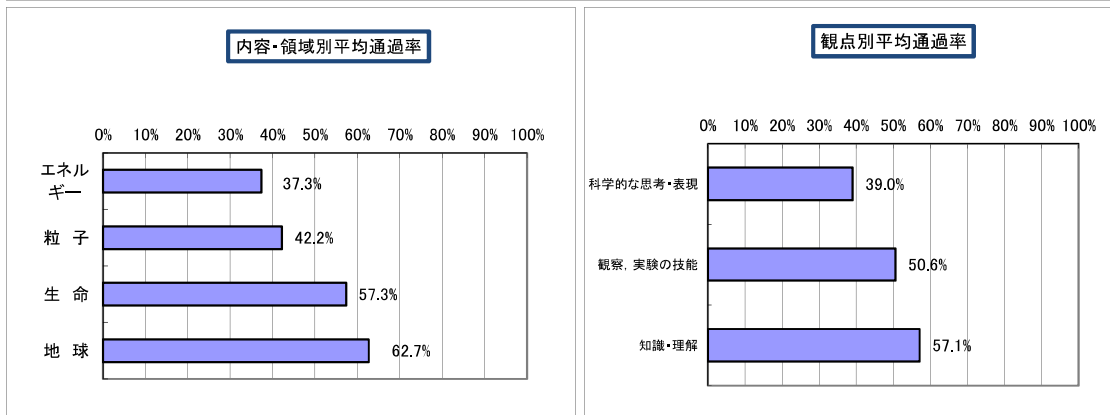
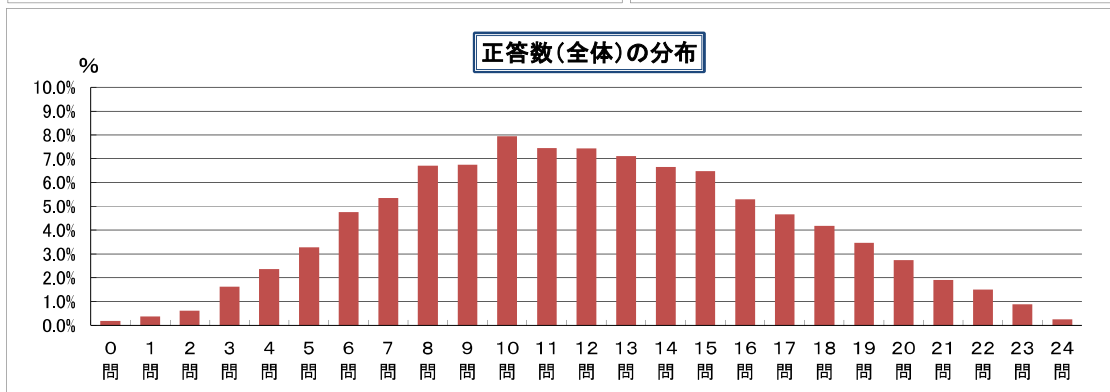
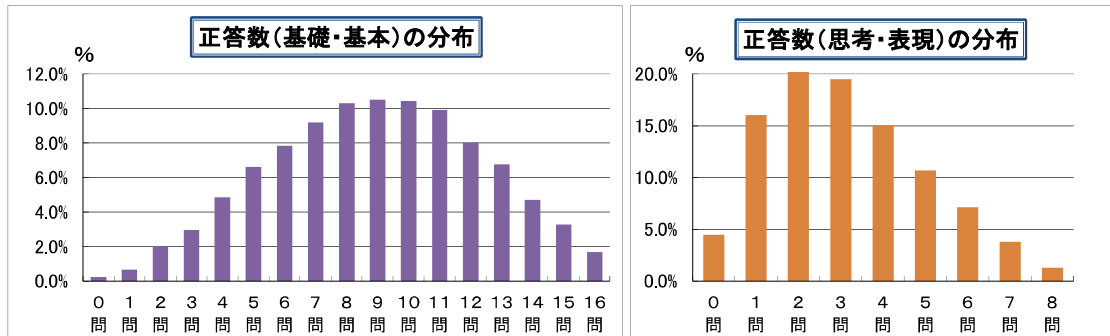


- 「基礎・基本」については、平均通過率は62.2%である。特に、2学期に各学校が取り組んだ「学力向上に関する重点課題」と同一問題、類似問題である大問4(1)、(2)において、平均通過率は57.1%、45.5%と低く、重点課題を使って既習事項の復習がなされていない。また、追跡問題である大問1(2)の裸子植物のつくりは平均通過率が38.2%であり、改善がなされていない。大問3(1)溶け残りがある水溶液の質量の平均通過率は57.8%で、質量保存の概念が身に付いていない。
- 「思考・表現」については、平均通過率は53.9%である。例年課題がある粒子領域(大問2、3、4)の平均通過率は55.3%と、課題が継続している。特に、大問3(3)水溶液をモデルで表現する問題の平均通過率は53.0%で、粒子概念が身に付いていない。
- 授業の終末では時間を確保し、学習したことをまとめ、振り返りをさせるなど、学んだことを定着させる取組が必要である。また、自校で平均通過率が低かった内容については、単元末にかごしま学力向上支援Webシステムにある評価問題等を使ってしっかりと定着させることも必要である。

中学校第2学年【理科】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	59.7%	62.2%	55.9%
思考・表現	47.8%	53.9%	39.0%
全体	54.6%	59.2%	50.3%

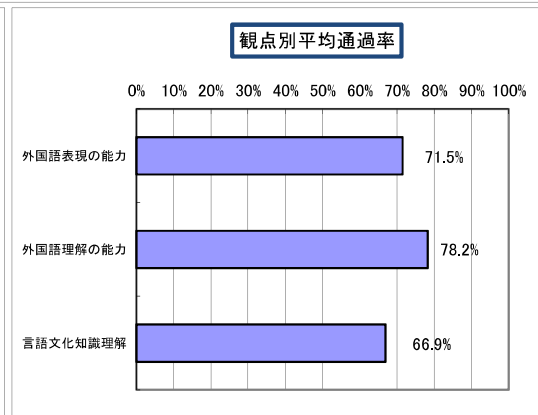
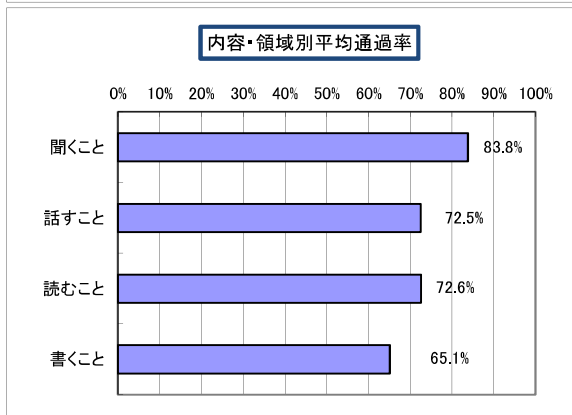
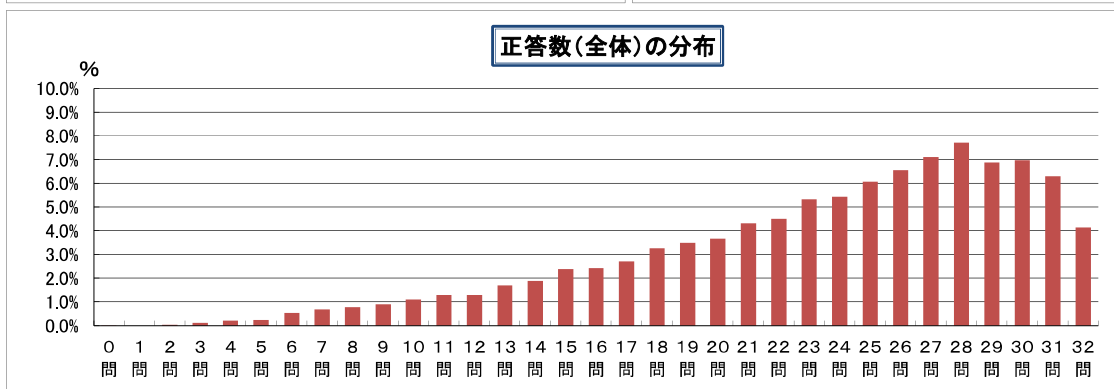
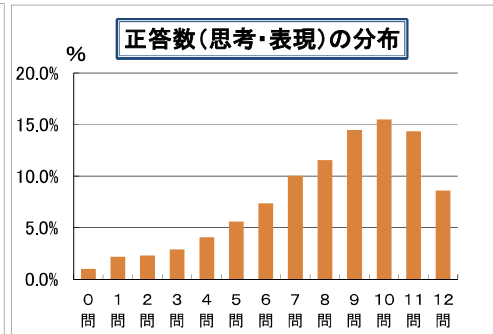
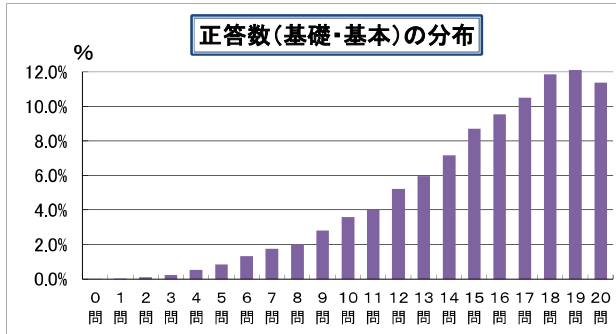


- 「基礎・基本」については、平均通過率は55.9%である。エネルギーに関する領域の平均通過率が37.3%と低く、特に、中1で学習した大問3(2)圧力を求める問題の平均通過率は20.8%である。平成29年度の追跡調査問題であるが課題が解決されていない。また、大問3(3)実験の結果をグラフに書く問題の平均通過率は25.0%、無解答率は19.3%と課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率は39.0%である。正答数(思考・表現)の分布から、正答数が2問以下の生徒が約4割おり、課題がある。特に、大問4(3)化学反応式を書く問題の平均通過率は63.9%であるが、(4)原子・分子モデルで表現する問題の平均通過率は23.6%であり、化学反応式は書けても、それを原子・分子モデルで表現することができていない。また、大問7(3)、(4)の無解答率は18.3%、19.7%と高く、考察を文章で書く問題と新たな疑問を見いだす問題に課題がある。
- エネルギー領域については、問題演習を行うことで理解が深まるので、単元末には振り返りを行い定着させる取組を行う必要がある。また、粒子領域については、水溶液の様子から状態変化、化学変化、イオンと系統性を配慮した意図的、計画的な指導を行い、生徒の粒子概念を形成させ、科学的に思考し、表現する力を高める必要がある。

中学校第1学年【英語】

学年別平均通過率

	中1	中2
基礎・基本	76.5%	58.3%
思考・表現	67.9%	41.4%
全体	73.3%	51.7%

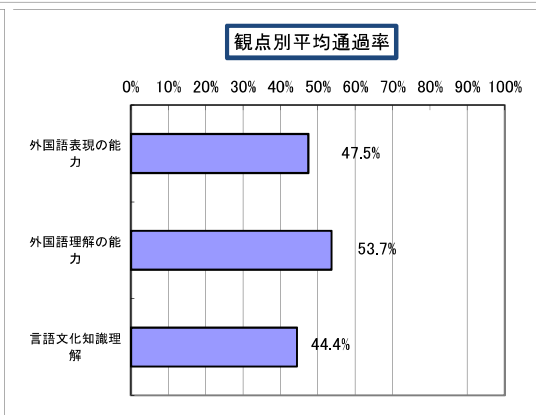
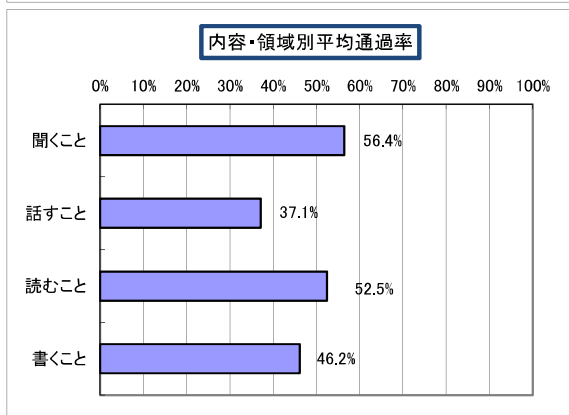
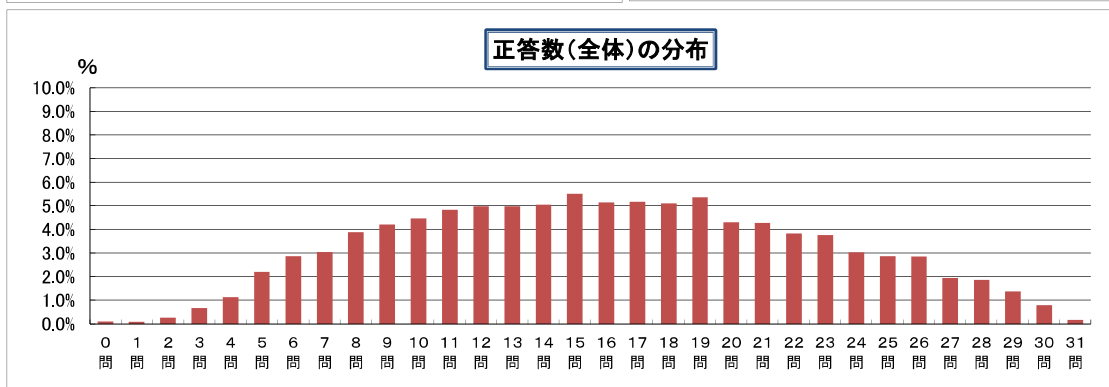
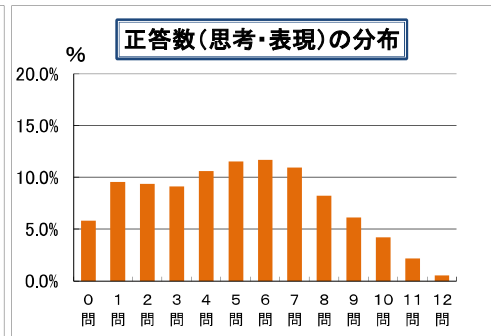
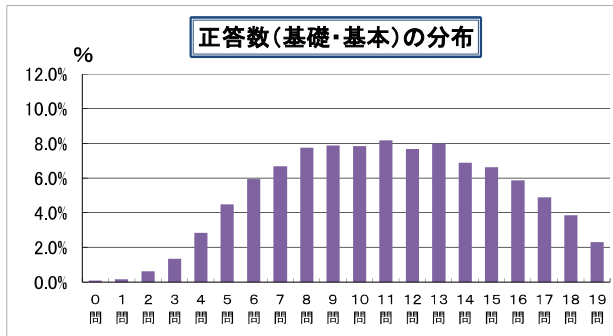


- 「基礎・基本」については、昨年度に比べて正答数が16問以上の割合が増え、目標の平均通過率80%に近づきつつある。しかし、平均通過率50%以下の生徒が全体の13%程度おり、「基礎・基本」であることを踏まえると、定着の徹底を図りたい。
- 「思考・表現」については、平均通過率は67.9%であり向上が見られるが、まとまりのある英文を読んで、内容に対する質問に答える問題や対話の文脈に沿って適切な英文を書き入れる問題に課題がある。
- 全般的に昨年度よりは高い数値となったものの、「理解」「表現」両方の領域に課題が見られる。学習した語や表現を実際に繰り返し話したり書いたりして使用させることで、思考・判断しながら表現する言語活動を通して着実な定着を図りたい。

中学校第2学年【英語】

学年別平均通過率

	中1	中2
基礎・基本	76.5%	58.3%
思考・表現	67.9%	41.4%
全体	73.3%	51.7%



- 「基礎・基本」については、正答数11問にピークがあり平均通過率は58.3%と目標を大きく下回った。正答数10問以下の生徒が全体の4割を越えており、基礎・基本の徹底に課題がある。特に、文脈に沿って空欄に適切な応答文を書く問題の平均通過率が23.6%であり、定着を図る必要がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率は41.4%である。正答0問が約6%、1問から6問までの割合がそれぞれ10%前後であり、分布率が高い。中でも、昨年度から引き続き、長文を読んで前後の文から理由を捉えて日本語で説明する問題の平均通過率が4.4%と低く、外国人の友達と何がしてみたいかという問いを聞いて自分の考えを書く問題の平均通過率が17.7%であり大きな課題である。
- 「理解」「表現」全般的に課題が残る結果となった。書くことに関しては、話したことの書き起こしや、読んだことに対する自分の意見・考えの作文など、思考・判断を伴う言語活動を通して、使う表現の使用場面、形、意味、働きについて理解と定着を図る指導を継続的に行いたい。長文読解については、教科書以外の素材を決まった時間で読ませ、話の概要や要点についてのQ&Aや短い英文で書いてまとめるなど、様々な活動を組み合わせて取り組ませたい。